

## 儒教社会とは何か

### —近世東アジア各国の比較のために—

佐々木愛

本報告者に求められた役割は、儒教社会とは何かについて、経書や朱熹の言説にたちかえりながら中国の思想史および社会史の展開を踏まえた論点整理を行い、中国・朝鮮・日本・ベトナムの各国の近世社会を儒教化という視点から議論するためのプラットフォームを提示することにある。儒教社会という語から我々がイメージするのは尊卑秩序が重視される社会であるが、尊卑秩序が強ければ儒教だといえるわけではない。例えば滋賀秀三氏の「中国家族法の原理」は強い父系の家族秩序が述べられているが、しかしそれは必ずしも儒教的、朱子学的というわけではないし、また漢から清まで一律この原理が機能していたわけでもない。また、東アジア社会の「近世化」が論じられる際に問題となる労働の勤勉性は、必ずしも儒教文献の裏付けのもとに言及されてきたともいえない。

本報告では、東アジア各国を比較する際に論点となってくる、婚礼や喪祭の儀礼にあらわれる家族観、「孝」のありかた、郷里社会観、労働観をとりあげて、思想史研究の立場から整理を行いたい。